

- 問1 室町時代に組織された「座」の仕組みと、その影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
1. 農村の指導者たちが集まり、年貢の徴収を請け負うために結成された。
 2. 公家や寺社に税を納める代わりに、特定の商品の販売を独占する権利を得た。
 3. 外国との貿易を独占するため、有力な大名たちが共同で出資して設立した。
 4. 幕府が直接管理を行い、全国の主要な市場で自由な取引を推奨した。
- 問2 室町時代に足利義満が本格化させた日明貿易（勘合貿易）において、日本が明から大量に輸入し、当時の国内で通貨として広く流通した品物として正しいものを、次の中から選びなさい。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
1. 銅銭
 2. 生糸
 3. 硫黄
 4. 刀剣
- 問3 足利義政が中心となって発展した東山文化の特色を表す建築について、その説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 静岡県公立入試 類似)
1. 大規模な池を中心に、左右対称の建物と廊下を配置する寝殿造が武家の間で再流行した。
 2. 禅宗の影響を受け、室内に畳を敷きつめ、違い棚や床の間を設ける書院造が確立された。
 3. 大陸との交易によってもたらされた、豪華な色彩を多用する貴族文化が住宅建築に反映された。
 4. 仏教の影響を排除し、日本の伝統的な神社の建築様式をそのまま武士の住居に採用した。
- 問4 14世紀後半、明が民間人の海外渡航や私的な貿易を厳格に制限した「海禁」と呼ばれる政策をとった主な目的として、最も適切なものはどれか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. キリスト教の布教を制限して幕府の権威を守るため
 2. 倭寇の活動を鎮圧して国内の安定を図るため
 3. オランダや清以外の船舶の来航を完全に禁止するため
 4. 鉄砲やキリスト教などの新技術が流入するのを防ぐため
- 問5 室町幕府が勘合（勘合符）を用いてまで、明との貿易を管理・継続した経済的な目的として、貿易品の特徴から推察される理由を次の中から選びなさい。 (2021年 京都府公立入試 類似)
1. 国内の銅や硫黄の生産量が過剰になり、それらを処分するために明を唯一の廃棄先として利用していたから。
 2. 明の皇帝から贈られる生糸や陶磁器をすべて寺社に寄進し、宗教勢力を幕府の支配下に置くための手段としていたから。
 3. 明から輸入される綿織物が国内の武士の軍服として不可欠であり、幕府がその流通を独占して権威を高めるため。
 4. 国内で貨幣を鋳造する技術や体制が整っていなかったため、明から輸入した銅銭を国内に流通させる必要があったから。
- 問6 室町時代に発生した土一揆について、一揆の背景にある農民たちの目的と、幕府への要求内容を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
1. 米の価格高騰への抗議を目的とし、幕府に対して米の安売りを要求した。
 2. 特定の宗教への弾圧に反対することを目的とし、幕府に対して信仰の自由を要求した。
 3. 借金の帳消しを目的とし、幕府に対して徳政令の発令を要求した。
 4. 年貢の減免を目的とし、幕府に対して領主の交代を要求した。
- 問7 15世紀前半に尚氏によって統一された琉球王国は、日本、中国、東南アジアの諸国を結ぶ地理的利点を活かした交易で栄えました。ある国から輸入した品物を、別の国へ輸出することで利益を得る、このような貿易の形態を何といいますか。 (2015年 長崎県公立入試 類似)
1. 朱印船貿易
 2. 中継貿易
 3. 勘合貿易
 4. 南蛮貿易
- 問8 室町幕府の全盛期を築いた第3代将軍、足利義満の政治的業績として、正しい内容を述べているものはどれですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 執権の地位を確立し、御成敗式目を制定して武士の裁判基準を明確にした
 2. 朝廷との交渉によって、約60年にわたって分かれていた南北朝の合一を成し遂げた
 3. キリスト教の布教を許可する一方で、鉄砲を組織的に運用して戦国時代の混乱を収束させた
 4. 応仁の乱による京都の荒廃を防ぐため、守護大名の勢力を大幅に削減する法令を出した
- 問9 室町時代、京都などの都市部において、酒の醸造や質屋（倉庫業）を営みながら高利貸しを行って富を蓄え、幕府の重要な財源にもなった金融業者の名称として正しいものを次の中から選びなさい。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 酒屋・土倉
 2. 株仲間
 3. 殖産興業
 4. 荘園
- 問10 足利義満によって始められた日明貿易で、「勘合」と呼ばれる札が用いられた理由として、当時の時代背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
1. 有力な守護大名が独自に行っていた私貿易を、幕府が完全に管理・独占するため
 2. キリスト教の布教を目的とする宣教師の密航を阻止するため
 3. 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため
 4. 元寇による被害に対する賠償金の支払いを、明側に証明させるため
- 問11 室町時代の文化において、能が成立・発展した背景や経緯について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 宮城県公立入試 類似)
1. 出雲の阿国が始めた踊りがもとになり、江戸時代に町人の娯楽として発展した。
 2. 大陸から伝わった水墨画の技法を取り入れ、禅宗の影響を強く受けて寺院を中心に広まった。
 3. 猿楽などの民衆の芸能を基に、足利義満などの幕府の保護を受けて観阿弥・世阿弥が大成させた。
 4. 書院造という建築様式が生まれる中で、千利休によって茶の湯とともに完成された。
- 問12 15世紀前半、沖縄本島を統一した尚氏が首里を都として建国し、東アジアの広い地域を結ぶ海上交通の要衝として栄えた国の名称を答えなさい。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 蝦夷地
 2. 対馬藩
 3. 松前藩
 4. 琉球王国
- 問13 室町時代、室町幕府や有力な寺社は財政収入を増やすために、物資の往来が盛んな街道の要所に特定の施設を設置しました。この施設を利用した制度の説明として最も適切なものを選んでください。 (2024年 長野県公立入試 類似)
1. 街道の要所に関所を設置し、そこを通過する商人や旅人から通行料を徴収して収入源とした。
 2. 問屋が生産者から商品を一括で買い取る仕組みを作り、幕府がその取引額の一定割合を徴収した。
 3. 幕府が公認した株仲間に営業の独占権を与える代わりに、運上や買加と呼ばれる税を納めさせた。
 4. 主要な港に奉行所を置き、海外から持ち込まれた木材などの輸入品をすべて幕府が買い上げた。
- 問14 室町時代の外交において、3代将軍の足利義満が明の皇帝に対して「日本国王」と称して行った貿易の仕組みについて説明した文として正しいものはどれですか。 (2017年 富山県公立入試 類似)
1. 銀と引き換えに、明から大量の生糸や綿織物を輸入する朝貢形式の貿易が独占された。
 2. 日本側が発行した「朱印状」を持つ船だけが、東南アジア諸国との自由な貿易を許された。
 3. 幕府と明がそれぞれ半分ずつ保管した「勘合」を照らし合わせて、船の正当性を証明した。
 4. 九州の太宰府に置かれた役所が、すべての貿易船の積荷を検査し通行料を徴収した。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 公家や寺社に税を納める代わりに、特定の商品の販売を独占する権利を得た。	座は、特定の有力者に税（役銭）を支払うことで、他の商人の参入を拒む「独占権」を獲得していました。この仕組みは中世の商業の安定に寄与しましたが、一方で自由な経済活動を妨げる要因にもなり、後に織田信長らによる「楽市・楽座」で廃止の対象となりました。
問2	答え 1 銅銭	室町時代の日本では、国内で独自の貨幣を鑄造していなかったため、経済の活性化に伴い不足した通貨を補う必要がありました。そこで、日明貿易を通じて明から大量の銅銭（永楽通宝など）を輸入し、これを国内の流通貨幣として利用しました。なお、硫黄や刀剣は日本からの主な輸出項目です。
問3	答え 2 禅宗の影響を受け、室内に畳を敷きつめ、違い棚や床の間を設ける書院造が確立された。	東山文化は、簡素で深みのある「わび・さび」の精神を尊重しており、特に建築面では禅宗寺院の様式を取り入れた書院造が大きな特徴です。東求堂同仁齋の内部に見られる畳、障子、違い棚、作り付けの机といった要素は、それ以前の開放的な寝殿造とは異なり、現代の日本住宅にまで続く伝統的な空間構成の基礎となりました。
問4	答え 2 倭寇の活動を鎮圧して国内の安定を図るため	明は建国当初、国内の秩序を安定させる必要がありました。当時、東シナ海などの沿岸部では倭寇（日本人を含む海賊集団）が活発に活動しており、これを取り締まるとともに、民間人が勝手に海外勢力と結びつくのを防ぐために海外渡航や私的な貿易を禁止しました。これを海禁と呼びます。
問5	答え 4 国内で貨幣を鑄造する技術や体制が整っていなかったため、明から輸入した銅銭を国内に流通させる必要があったから。	日明貿易の大きな特徴の一つは、日本が「銅銭」を大量に輸入していた点にあります。当時の日本国内では、平安時代末期から続く貨幣経済の進展に対し、自前で信頼性の高い貨幣を鑄造する体制が不十分でした。そのため、幕府は明との貿易を通じて得た銅銭を国内の決済手段として活用し、経済の安定と拡大を図りました。これが、倭寇（海賊）と区別するための勘合を用いてまで貿易を独占・管理した重要な経済的動機です。
問6	答え 3 借金の帳消しを目的とし、幕府に対して徳政令の発令を要求した。	室町時代の農民は、凶作や重税によって膨らんだ借金に苦しんでいました。そのため、彼らは団結して土倉などを襲撃するとともに、幕府に対して借金を無効にする「徳政令」を出すよう強く求めました。1428年の正長の土一揆では、実際に幕府が徳政令を出さないまま、各地で借金の踏み倒しが行われるなどの社会現象となりました。
問7	答え 2 中継貿易	琉球王国は、明（中国）に対して朝貢を行いながら、中国の陶磁器や絹織物を東南アジアへ、東南アジアの香料や染料を中国や日本へ、日本の銀や刀剣を中国へと転売していました。このように、自国の産物だけでなく、他国から仕入れた商品を別の国へ販売する形態を中継貿易と呼びます。
問8	答え 2 朝廷との交渉によって、約60年にわたって分かれていた南北朝の合一を成し遂げた	足利義満は1392年に南北朝の合一を実現し、政治的な混乱に終止符を打ちました。また、明（中国）との間で勘合貿易を開始して経済的な基盤を固めるとともに、京都の室町に花の御所を造営し、幕府の権威を最大限に高めました。
問9	答え 1 酒屋・土倉	室町時代の経済発展に伴い、本来は製造業である酒屋や、物品を預かる倉庫業であった土倉が、蓄えた資金をもとに高利貸し（金融業）を営むようになりました。幕府は彼らに営業の独占権などの特権を与える代わりに、「酒屋役（さかややく）」や「倉役（くらやく）」といった税を課し、幕府運営の重要な資金源として活用しました。
問10	答え 3 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため	当時、朝鮮半島や中国の沿岸部では、倭寇という海賊集団が激しい活動を行っており、明の政府は日本側にその取り締まりを強く求めています。これに対し、足利義満は明との正式な国交を樹立。明から与えられた「勘合」を所持する船だけを正規の貿易船として認める仕組みを作ることで、倭寇による密貿易や略奪を排除し、国家間の安定した貿易を実現しようとした。
問11	答え 3 猿楽などの民衆の芸能を基に、足利義満などの幕府の保護を受けて観阿弥・世阿弥が大成させた。	能は平安時代から続く猿楽（さるがく）や田楽（でんがく）といった芸能を土台としています。室町時代に入ると、大和猿楽の一座を率いた観阿弥・世阿弥が足利義満の知遇を得て、芸術性の高い舞台芸能へと磨き上げました。他の選択肢は、歌舞伎、水墨画、茶の湯（安土桃山時代）の説明に該当します。
問12	答え 4 琉球王国	1429年に尚巴志によって沖縄本島が統一されて成立した国です。都を首里（現在的那覇市の一部）に置き、中国の明との朝貢貿易を基盤としながら、アジア各地を結ぶ海上勢力として独自の文化を築きました。
問13	答え 1 街道の要所に関所を設置し、そこを通過する商人や旅人から通行料を徴収して収入源とした。	室町時代には農業や手工業の発達により地域間の流通が活発になりました。この経済活動に注目した室町幕府や寺社などは、街道や港に「関所」を設け、そこを通る人々から「関銭（せきせん）」や「津料（つりょう）」といった通行料を徴収しました。これは当時の権力者にとって重要な財源となりました。選択肢にある株仲間や問屋の全盛期は江戸時代であり、時代背景が異なります。
問14	答え 3 幕府と明がそれぞれ半分ずつ保管した「勘合」を照らし合わせて、船の正当性を証明した。	日明貿易では、偽造を防ぐために文字を半分に割った「勘合」という札が使われました。一方は日本側、もう一方は明側に保管され、入港時にこれらを突き合わせることで正式な貿易船であることを確認しました。この仕組みがとられたのは、当時多発していた倭寇（海賊）による密貿易を排除し、幕府が貿易の利益を独占するためです。江戸時代の朱印船貿易や、古代の太宰府の役割とは時代設定や仕組みが異なります。